

5 エシカル消費と消費者

誰もが豊かな生を送るために、一人ひとりがエシカル消費を意識して実行することが大切です。フェアトレード商品の購入といった「人や社会、雇用への配慮」や、プラスチックごみ削減に取り組んでいる企業の商品を購入といった「環境への配慮」など、さまざまな取り組みがあります。

☆ 福祉作業所などで作られた商品の購入 ☆

福祉作業所などで作られた商品の購入は、障害者支援につながるエシカル消費行動です。この行動は、障害者に対する理解を深めるとともに、障害者就労施設の製品の受注、販売の機会が拡大するため、障害者の社会参加の増加に繋がります。名古屋市にある「しおかぜ作業所」では、知的障害を持つ人たちの職業的な自立を目指しており、福祉的な援助を受けながら働く場所としています。

(参考：愛知消費者安心プラン2024/しおかぜ作業所ウェブサイト)



☆ 地産地消と地域活性化 ☆



地産地消は、地域活性化につながるエシカル消費行動です。地域で生産された食べ物を地域で消費する地産地消は、農産物を海外から輸入するより、運搬にかかる排出ガスが軽減されるため、環境に対する負担を減らせます。また、地元の農家を応援し、地域の農地を保全することに繋がります。名古屋市では、地産地消の取り組みとして農協などで、農家が消費者に直接農産物を販売する「朝市」や「青空市」などがあります。

(参考：愛知県庁ウェブサイト/名古屋市ウェブサイト 平成26年度第4回 市政アンケート調査結果)

*教材の制作にあたり、消費者志向経営コンサルタントの川野洋治氏(元サントリーホールディングスお客様センター長・前消費者庁政策企画専門官)と消費生活アドバイザーの古谷由紀子氏(サステナビリティ消費者会議代表)からアドバイスをいただきました。

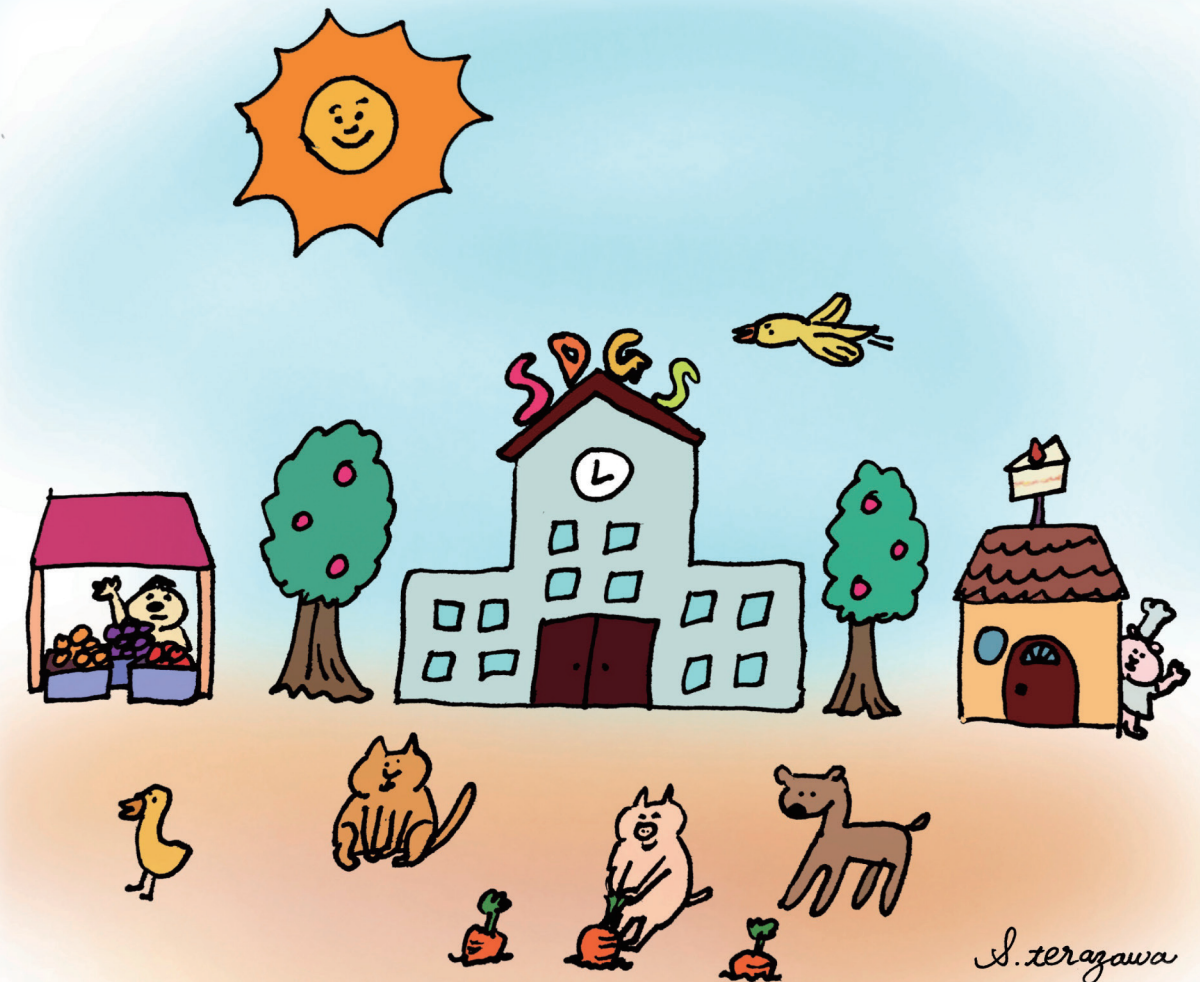
制作

生活環境学部 丸山千賀子ゼミ(2020年度)
井上純奈、竹中玲奈、長岡茉穂、二本松百華
(名古屋市「大学へのエシカル消費普及啓発事業」)
大学への倫理的消費(エシカル消費)の普及啓発事業委託
*金城学院大学学習成果公表等助成費を受けています。



みんなで取り組むエシカル消費

—SDGsの視点から—



1 エシカル消費とは

「エシカル消費」とは、「地域の活性化や雇用なども含む、人や地球環境、社会に配慮した消費やサービス」のことをいいます(一般社団法人エシカル協会)。消費者は、人や社会や地球環境に配慮した商品・サービスを積極的に選択することで、さまざまな課題解決につながる消費活動を行うことができます。

消費者庁は、エシカル消費の具体例として、5つの項目をあげています

表1 エシカル消費の具体的な分野と事例

分野	購買・消費行動の具体例	
① 環境	・ エコ商品を選ぶ	リサイクル素材を使ったものや資源保護等に関する認証がある商品を購入する
② 社会	・ フェアトレード商品を選ぶ ・ 寄付付き商品を選ぶ	発展途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に取引された商品を選ぶ 売り上げの一部が寄付につながる商品を選ぶ
③ 人	・ 障がいがある人の支援につながる商品を選ぶ	働きたい障がいがある人を支援している事業者の商品を選ぶ
④ 地域	・ 地元の産品を買う ・ 被災地の産品を買う	地産地消によって地域活性化や輸送エネルギーを削減する 被災地の特産品を消費することで経済復興を応援する
⑤ 生物多様性	・ 認証ラベルのある商品を選ぶ	環境に配慮した商品であることを示す認証マークを意識し、購入する (「表2 主な認証マーク」を参照)

表2 主な認証マーク

F S C 森林認証マーク		M S C 認証マーク		R S P O 認証マーク	
	適切に管理された森林資源を使用した商品(紙製品など)		海洋の自然環境や水産資源を守って獲られた水産物(シーフード)		環境への影響に配慮した持続可能なパーム油仕様の商品(洗剤など)

消費者庁リーフレット「エシカル消費ってなあに?」より抜粋

2 SDGsを実現するエシカル消費

2015年に国連の「持続可能な開発サミット」で「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択され、その中で17の「持続可能な開発目標(SDGs)」が示されました。

SDGs (Sustainable Development Goals) とは、「持続可能な開発目標」の略語であり、平和かつ豊かで持続可能なグローバル社会を構築するための2030年までの国際目標です。17の目標を達成することにより「誰一人取り残さない」社会の実現に向けて、途上国のみならず先進国も実施に取り組むものになっています。この目標は今後の政策や企業の経営にも影響を及ぼすとても重要な考え方です。

エシカル消費はSDGsの17の目標のうち、「目標12 つくる責任 つかう責任」に密接につながっています。そのほかにも、例えばエシカル消費のひとつである「フェアトレード商品を購入すること」は、目標1「貧困をなくそう」目標2「飢餓をゼロに」目標8「働きがいも経済成長も」目標10「人や国の不平等をなくそう」といった、SDGsに掲げられている複数の目標に関係しています。



☆ エシカル甲子園 ☆



持続可能な社会づくりに挑戦する若者を育成するため、エシカル消費の推進や実践を行う高校生が、日頃の取組の成果や今後の展望等について発表する場として「エシカル甲子園」が開催されています。これは、消費者市民社会の実現に積極的に参画しようとする気運を高めようとするものです。全国の高校の中から、エシカル消費の推進に積極的に取り組んでいる高校を選抜し、その取組に関する発表を行い、特に優れたものについて表彰します。2019年度は予選審査を通過した12校のうち、「カンボジアの友好学園と共同で取り組んだヤシ砂糖の増産・商品開発」を発表した徳島県立徳島商業高等学校が内閣府特命大臣賞に選ばれました。

(参考：消費者庁ウェブサイト「エシカル甲子園」)

3 エシカル消費と行政

世界各国のSDGs達成状況を評価するベルテルスマン財団と持続可能な開発ソリューション・ネットワークの報告書「SDG Index and Dashboards Report」によると、日本は総合では上位(2020年は総合で17位)にランクされていますが、「目標5：ジェンダー平等」「目標13：気候変動」「目標14：海洋資源」「目標15：陸上資源」「目標17：パートナーシップ」では4段階のうち最低評価となっています。「目標12 つくる責任 つかう責任」は、日本が消費者政策課題としている「エシカル消費普及・啓発活動」「食品ロスの削減」「消費者志向経営の推進」「公益通報者保護制度」にかかわりますが、4段階のうち下から2番目に低い評価です。

政府が、企業や市民と一緒にSDGsを推進する理由としては、「先進国としての責任」「国内の社会課題への対応」「国家の経済成長への貢献」が考えられます。たとえば、気候変動や環境汚染への対応、男女の社会的不平等の改善、労働生産性を高めるために労働環境を改善するなど、様々な課題があり、このためには、三者が力を合わせて対応していかなければならないのです。

行政の興味深い取り組みには次のようなものがあります。

☆ みえ地物一番給食の日 ☆

三重県教育委員会では、毎月第3日曜日の前後2週間の中で「みえ地物一番給食の日」を設定し、地場産物を活用した学校給食や食育の取り組みを進めています。エシカル消費としての地産地消だけでなく、学校給食において、地場産物を使用し、食に関する指導の「生きた教材」として活用することは、子どもが地域の自然や文化、農林水産業等への理解を深めるとともに生産に携わる人の努力や食への感謝の念を育むうえで重要なことです。

(参考：三重県庁ウェブサイト「『みえ地物一番の日』キャンペーン」)



4 エシカル消費と企業

世界の消費者の間でエシカル消費の関心が高まっていくなかで、企業においても「エシカル」というキーワードが年々重視されています。SDGsの達成により、社会が変わるため、様々な業種・業態で新しいビジネスチャンスが生まれると言われています。エシカル消費はSDGsの目標達成に深くかわるため、21世紀の企業にとって重要なテーマです。つくる責任として、原材料調達から生産、流通、消費者の手に渡るまでの過程において、気候変動・生物多様性への配慮、食品ロス削減対策、地域復興支援など様々なものが考えられます。



☆ 食品ロス削減のためのエシカルプロジェクト ☆

株式会社セブン-イレブン・ジャパンは、2020年5月11日より、エシカルプロジェクトの全国展開を開始しました。販売期限が迫ったおにぎりやお弁当などに「エシカルプロジェクト」この商品をnanacoで買くと nanacoポイント5%付与」という緑のシールを貼っています。ポイントが付く商品に消費者が気付き、購入することで、いつもの商品が「環境に配慮した選択ができる商品」へと変化し、食品ロス削減の一步へと繋がっています。

(参考：セブンイレブンウェブサイト)

